

## (2) コンニヤク

### 主要病害虫別防除方法

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
腐敗病 (細菌)	①無病、無傷の種いもを利用する。 ②排水を良くする。 ③罹病株を除去する。 ④マルチ栽培を行う。	①植付け前に種いも消毒を行う。 (例) オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤（アグリマイシン-100） オキソリニック酸水和剤（スターナ水和剤） ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤（アタッキン水和剤） ②生育期の発病初期までに散布する。 (例) オキソリニック酸水和剤（スターナ水和剤） ストレプトマイシン水和剤（マイシン20水和剤、アグレプト水和剤） 銅水和剤（Zボルドー、クプロシールド、ICボルドー66D） 有機銅水和剤（オキシンドー水和剤80、キノンドー水和剤40）
	<b>【参考事項】</b> 高温多湿時に発生しやすい。特に、強風で茎や葉が傷ついた際に病原細菌が侵入しやすいため、台風通過後の防除を徹底する。 葉枯病と腐敗病はどちらも細菌病であり併発しやすい。 葉枯病と腐敗病の両方に適用のある農薬が多いので効率的に使用する。	
葉枯病 (細菌)	腐敗病と同じ	①生育期の発病初期までに散布する。 (例) オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤（アグリマイシン-100） 銅水和剤（Zボルドー、クプロシールド、コサイド3000、ICボルドー66D） 有機銅水和剤（キノンドー水和剤40）
	<b>【参考事項】</b> 腐敗病と同じ	
根腐病 ( <i>Pythium</i> )	①無病種いもを利用する。 ②発病ほ場の連作を避ける。 ③排水を良くする。	①土壤消毒を行う。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど） ダゾメット粉粒剤（バスアミド微粒剤、ガスターード微粒剤） メチルイソチオシアネート油剤（トラベックサイド油剤） ②植付け時に土壤混和又は培土時に株元散布する。 (例) アズキシストロビン・メタラキシルM粒剤（ユニフォーム粒剤） メタラキシル粒剤（リドミル粒剤2）
	<b>【参考事項】</b> 土壤伝染が主であるが、種いも伝染もある。高温時に発生しやすい。土壤水分が高いと発病を助長する。	
乾腐病 ( <i>Fusarium</i> )	①無病種いもを利用する。 ②未熟堆肥は使用しない。	①植付け前に種いも消毒を行う。 (例) ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤（アタッキン水和剤） チオファネートメチル粉剤（トップジンM粉剤DL） トリフルミゾール水和剤、トリフルミゾール乳剤（トリフミン水和剤、トリフミン乳剤） ベノミル水和剤（ベンレート水和剤） ②土壤消毒を行う。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど） ダゾメット粉粒剤（バスアミド微粒剤、ガスターード微粒剤）
	<b>【参考事項】</b> 種いも伝染が主であるが、土壤伝染もある。	
白絹病 ( <i>Sclerotium</i> )	①無病種いもを利用する。 ②発病ほ場の連作を避ける。	①土壤消毒を行う。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど） ダゾメット粉粒剤（バスアミド微粒剤、ガスターード微粒剤） メチルイソチオシアネート・D-D油剤（ディ・トラベックス油剤） ②培土時に株元散布し、散布後に土寄せする。 (例) アズキシストロビン・メタラキシルM粒剤（ユニフォーム粒剤） ③発病初期に株元灌注する。 (例) トルクロホスマチル水和剤（リゾレックス水和剤）
	<b>【参考事項】</b> 高温期の7～8月に発生が多い。また、酸性土壤で発生しやすい。	

病害虫名 (病原体)	農薬によらない防除	農薬による防除
アブラムシ類 (ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、チュー リップヒゲナガアブラムシ)	①ほ場周辺の雑草を除去する。 ②シルバーマルチを被覆し、アブラムシの飛来を防止する。	①培土時に株元に土壤混和する。 (例) イミダクロブリド粒剤（アドマイヤー1粒剤） チアメトキサム粒剤（アクタラ粒剤5） ②生育期に散布する。 (例) イミダクロブリド粒剤（アドマイヤー1粒剤）（茎葉散布） ピリフルキナゾン水和剤（コルト顆粒水和剤） フロニカミド水和剤（ウララD F） MEP乳剤（スミチオン乳剤）
ネコブセンチュウ、ネグサレセンチュウ	①センチュウの寄生がない種いもを利用する。 ②被害発生ほ場の連作を避ける。	①土壤消毒を行う。 (例) クロルピクリンくん蒸剤（クロールピクリンなど）（センチュウ類） メチルイソチオシアネート・D-D油剤（ディ・トラペックス油剤）（セン チュウ類） D-D剤（D-D、テロン）